白靴灯

911.3
テ

享和元年
六月
山鶴改
貞知

貞龍
橘治画

四季　貞富

雪や藤相の御もと春の海
曙とたへ一紙染なる
菊の葉の紅と染る雪の繁
かゞみもの野ちるきりぎすの松

三物　貞逸

星淋し山の雄鹿の紅葉狩
淋しさうな下戸の新酒
月の出一番げの蟹捕り
のどを吹八幡宮の夕うすと　文佐

雲雀　貞宜

裾野乃

仙臺市大字
東京市麻布区
合資会社
東京販賣
商店

数句切字の事

はやうよめり　ありけり

さぞ　あらん　あこそ　ふ

いくいさ　いざ　うも　そも　れ

らしらめらん　んん　せん　せん

ゆまいで　いで　ぞ　ぞ　ぬ

かな　あり　さし　ぬ　わり

年の　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　加　年　ぬ

聖　ま　ま　ま　ま　ま　ま

二字切

打ち　八　見　見　恨　風

三字切

いつ　寝　何　年　列　星　の　中

三條切　高切も

女帯男子衣裳うきも尾

大四

黒髪を富士を眺望

と四

まくても有へきものとおもふ

玄妙切

忘面ー雪や陸奥と法はん

山形切　切字なくて切字の句にて

所作おくてはすの句にて

切字なしの句

ふのぬ　咲うぬ　咲ー　裁ー　まく

わ形な　ハ　角のぬ　すの　ま

世　新ひ　形切字に　ふ　と

ま　ふ　ー

裁乃部

菊代の　ひ　ひ　ま　男　ト　ト　貞雨

めさく　ま　末奥の　呼る　義　ト　阿州　芳雨

立　ふ　と　扇の　谷も　異さ　ト　米沢　一鱗

長崎　ハ　唐ー　紙の　義　ト　仝

乞食も　日陰　四る　異さ　ト　仝　其

白雨ホ　清も　蹄乃　異さ　ト　仝　藤里

ま　ま　く　ハ　富士も　呼　此　暑　ト　其木

形　形　と　追て　四　ま　て　蛍　ケ　乗　東山

義る　業も　音ホ　かも　る　阿雨　ト　石州津和野　芋漢

湯治場にて　全
萬國
茂之八海の底とも云へり　娯流
子と共に同道して見る海の五出
陸奥にて仕事織りの蔵にて　巴山
奥舟乃行帆時の去るに　訂
水際へ一寸ばかり　掛可形　榊屑
陸にて二筋三筋掛　烏山　屋敷
昼日の山　ながめ　振り　風光
人の打ちと見て打ち踊り　掌巻
同振百本　拳　伴水

孝子の肩もつまる紙子　小池氏　松童
不知　玉ゆかしい　中へ　蔵　ゆ　扇車
猪　いかり　ゆ　ゆ　ゆ　杜舟　芦角
鬼百合　名と　ゆ　の　ゆ　翠路
大名乃同　も　小春　入　百楼
汐　一日　海　酒の破　濱
一　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　水山舎　秋空
記　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　女　錦秋
大名　農具　業乃　御蓮
日向清舟の　墨　泗浪

角川と今切の渡り人を乗せ　延山

仝

蕣や朝の雨に暑し　釣浦　上州七日市

二ツ三ツ流れ解くまでなるかな　東幽　仝小幡

一群の菊にわしの飛るかな　九　仝

峰の松はみな禁の有禁　杉雪　仝前橋

祈り来る路に八幡の扇風　仝

九ッ〻に国ゆたかなる稲穂かな　松露　仝芝

澄葉に影を堰む流山　芋洲　仝伊勢寄

淋しさに宿を淋るる秋ぶかし　専秀　仝

桔さへ義経記の男郎花　四葉　仝佐川

病猫の耳もとに眠りけり　盛山　仝伊香保

色くれなゐを嗅ぐも恋の時交　時交　仝高崎

初雪や暮れ方の空　胡統　仝

赤く菊の新見歌仙の句　亭松　仝

ちらちらと遊び廻る柳かな　姫潭　仝武房大竹

流れの清きもとる桔梗　山蛍　仝安戸

板川の曲り形ち衛寸面　山色　仝幡山

おく大神尋出さるる枝きりに　呂竹　仝

世の見聞肉斗暑うれば　好竹　仝

咲うて蓮乃葉末葉幾ト　仝　原月
沙来て海へ入り花活ト　新宿町　芋月
白雨乃半分小雨流可耶　仝喜久政　暁山
蟬の鳴く松乃高枝ハ　仝　蘭思
四五日ぶりに月出ふくらし　仝　柳糸
吸筒乃嬉しと好む酒　上手邑　泉志
舟の流の一ふし曇仕九良ト　四間　管竹
迷ふて来て咲て来ぬ　仝
ひめ姫く乃乃舎ろ　長根　一桐
入桐乃姫と付まる　黒熊　霍昌

岡く巌の動く蛍ト　宇貫　川龍
涼ト陸乃舟へ腰ハ　仝　可水
もざ乃ふ紀表斗ハ　上小塙村　山笑
舞の為ハ姫ト雲ト　日野中地　芋元
今嘉ハ情ハ化ハ　野上　泰山
むけ見て南ハ春の日の横ト　矢田　芋鯉
澄澄ハ流ハ　吉井　松甫
一葉ハ紀乗樹乃移ハ　仝　岸松
顔赤く情へ入ハ　仝　松川
次度ハ入日ハ落ハ　仝　保水

陽とかすみてゆるる霞ぬ　仝　初文
寒垢離ぬ川幅ぬ　仝　笠雨
ぬ雪の法師ぬ　西平井　周盈
水ぬ　馬庭　里川
ぬ　岩井　淵水
板りの　鹽川　笠軍
松斗ぬ　仝　笠川
　下大塚　梅里
　藤岡　旦山
　仝　山感
　藤岡　芦碩
　武州熊谷　東川
　仝　友至
　上州藤岡　文至
　上州藤岡　千鳥
　仝　湖遊
　仝　芦遊
　上州藤岡　牛
　仝　湖遊

一霧消のこゝろを小袖とや　全　桐直
玉雪の井に曲る男汁　全　孤遊
陽炎や練うゝ烟る酒佛　上大塚　珊木
糸桜や秋の幸乃間所　八幡山　船卜
鶯や梅の日くれ旅ゝこゝろ　全　文竹
一八や二八月まゝ雪もすゝ　全　竹樵
ぬうゝ蕪ゝたるゝ　吉井　松旦
高ゝ山や本町筋の小提灯　全　古之
雪や庫裏うゝ井戸の塔　全　笠雨
冬ゝ高ゝ山ゝ月ゝ斗ゝ瓦　全

敵ゝ左ゝ右ゝ仏ゝ法ゝ寺ゝ　問保邑　牧　扇山
色ゝ人ゝ母ゝ子ゝ接ゝ拶ゝ渡ゝり鳥　小林邑　文里
古ゝ人ゝ八ゝ月ゝ日ゝ帰ゝ　新宿甲　子勇
雪ゝ谷ゝ春ゝ雨ゝ　横屋　松雨
石ゝ月ゝ尾ゝ花ゝ　小津　文哥
三ゝ社ゝ木ゝ色ゝ物ゝ　長根　文賀
梅ゝ家ゝ隣ゝ　馬庭　閑山
清ゝ水ゝ庵ゝ　岩井　琴山
情ゝ女ゝ碑ゝ百合の巻　全　淵柳
七ゝ夕ゝ風ゝ庵ゝ　四平井　悦山

名月や沖の小舟に花火上る　全　英
新くら梅の自慢や磨ぎ汁　倉加野　午雞
梅咲やよりの雪の寒い　全　文堂
金柳や有しに変る氏の果　伊勢寺　彩神
恋仇の後ろ姿や宮の梅　全　花隣
と食の果や新枝のこうろ　前橋　池鯉鮒
烟草や木の葉ふる舟の戸　全　盛賀
清水寄寄目に見る花の雪　全　市寶
傘の寒さや抜く葦うつす　六町　透竹
ひらひらと蝶や抱き抜き　小幡　魯州
名月や相根の湖水ひろ　全　芦葉
葦枯や仙台の底抜の孫　全　芳州
蒲公や沢蟹に仕ぶる湯の音　全　永州
夕涼や月の雲ちかさの花　全　齋州
隠さうと蚊帳の中の雨　全　東州
松ぬや戸柳に閑の昼の声　全　羊州
蒙烟や格のさげ詩百篇　全　客應
葦枯や鬼ささやく松の根　全　文子
蒙のひと蝶ひらひら成　長野原　若魚
涼しさや紀行の梅の枝ぶり　歴行田　泄酔

煙霞うゝ橋の頭向やかすゝ　全四方寺
鴛鴦の巣ひ所や岸の　松　山螢　永竹
藪や西行も御所と深て出　山童　竹本
白くだの波世ゝやハ文字　新石　上総久留里
ゆむ〻ゝ掛ゝ雪白品女良花　近山　江戸
遠やゝ流矢の通る細小路　里風　越後長野
ゆゝゝ笠ゝ笠ゝ笠ゝ松の食　素元　石州津和野
和歌や世ゝ掛ゝ　落　渚　芦洲　全
子ゝ女や日毎くゝの藤ゝ立　蒸鳥　全
戦ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ軒ゝ　其國　上州高崎

松尾芭蕉

松尾の滝の白ゝ玉ゝ　桂文野上
芭蕉原　上都
岩ゝ乃ゝ乃ゝ月ゝ手　桃丁　月峰
月ゝ日ゝ月ゝ夫ゝ絵ゝ　白鈴　南部春齋
入相ゝ鐘ゝ　三聲　十代見改
匂ひ深ゝ　芦舟　串崎氏
辨ゝ源ゝ　虎山　金之泊
新月ゝ　友里　活月舎
森ゝ　万垂　活月舎
初ゝ　今恨ゝ　友之
東橋ゝ　素石　能

三陵の響のちかくこゑ二日月　共瀬
響やかの嶽こえ小雪　吏山
初高千枝こゑ〻行こゑ　千翠
雪解清水あふれ初河面　富旭
又こゑ陽もも及宮滝の音　渡牛
ふく瑞池の底雪の松の枝　連牛
初雪や大門口もかくれ　汀戸
星　貞陸
紅吉坊
見抱ふ雪ふ乃庵　芦玉
七夕の糸引繋ぐ稲ひかり　里鶴
赤し山牧帳乃あり　杜鵑倫路

雨の雛ふ乃興座鋪　蒼柳
初鶯や雨の雛ふ乃興座鋪　蒼柳
初鶯や雨の雛ふ乃興座鋪　蒼柳
玉姓の余情もこもる　稲　傑之
蛍塗ふ乃鍬ふ乃糸掛　皖雨
蛍ふ乃鍬ふ乃糸掛　皖雨
蛍ふ乃鍬ふ乃糸掛　皖雨
門前の周囲海乃友ふ香　青鳩
雨の日や移ふ乃新幟　竿　交兎
網魚乃元ふ乃　五月　風車
振袖ふ乃描ふ乃土用干　其月
初ふ乃ふ乃ふ乃　蜀魂　共桃

心よ花の盛やこゝ〻し　丈水

春の八百屋の命も春の雨　杜平

色に桜は世の灯やとゝの夏　米雨

張り奉る帝子屋きて沢紙の　貞雨

うゝと桜やとつかし

一

文鎮の重き流れ星ゝ　高等　秀木

もゝ〻鳴り馬ゝ北山桜　仝　平湖

夕雲ゝ雲ゝ名月今年菊　仝　藤巴

東雲ゝ飛波ゝ仙ゝ杜宇　藤岡　一之

むゝ〻馬屋の匂ゝ蓮ゝ　仝　竹志

松新ゝ雲ゝ桜の色　中賀　艶山

紅葉ゝ嵐乃通ゝ桜ゝ　吉井　笠雨

川鶴乃見ゝ孫ゝ　小幡　重友

ゝ沢ゝ桜ゝ水　堺町　竹雨

ゝく新ゝ石白ゝ　安戸　桔梗東里

朔無の新ゝ源ゝ　雅歌

ゝ雲ゝ波ゝ　法討堂　友之

風ゝ吹ゝく高ゝ三輪の森　長野原　芦臭

もゝ

ゝ雲ゝ新ゝ家ゝの百ゝ孫ゝ　仁熟尊　芳雪

[illegible]

欄干に寄りかかれば後の月　青松庭

玉味噌の味噌もまた新米　播雪

[illegible]

[illegible]　高崎　好栄

[illegible]

[illegible]　深沢　松岸

[illegible]の[illegible]に[illegible]　金牛

[illegible]　[illegible]

[illegible]

新田より久しく付きまとうこの雪　藤岡　湖雲

[illegible]　吉井　復兒

[illegible]

[illegible]　桐井氏　蓋蓋庵

[illegible]

一片の雲のあるまで夕千鳥　熊岡　窮志

[illegible]　阿州

[illegible]

[illegible]　藤岡

[illegible]　山稚

道法[illegible]　[illegible]　和岡

深さの欲しき蛙の池の蛙　吉井　松月

沢　ぎら

冗じ入れて居る秋の色　高崎　湖青

ぎや

星合の夜は書くや梅の実　栄沢　習谷

いさ

来はいさ蛙連れ行き去れ　八幡山　秀竹

ゆく

飛び来る木の葉八重の面かな　吉井　松石

ぐるぐる

葉を問ふ法の蛙の梅雨　小幡　秋空

葉に月の雫もなく星の月　宮崎　半成

ゆく

暑さ　小幡　素牛

ものくさ暑さ　高崎　河月

川

蓮の葉に見廣寺の鐘　伊勢崎　芳耕

粗末も見て隠れ樹蔭　仝　有隣

柏の葉　小山　藤小夜時雨　原聖

滝壺の埴法師一いとこ　高崎　呼雪

菱を毎日志　深沢　里鶴

一月八日　高山市　蛭子　笠考

で

咲もよし　八幡　東宇

延喜式　東雅亭

う

己が身を　延山

流るる春の　遠春亭

二月　伊勢神宮　繁耕

よ

眺望　高山　八千春

も一雄も　三ヶ宿　而醒

今宮の　御幸　寿保

高山　當屋

源正　女郎花　牛羅

平内

高山　黒熊　竹倭

下総

栄沢　伐柯

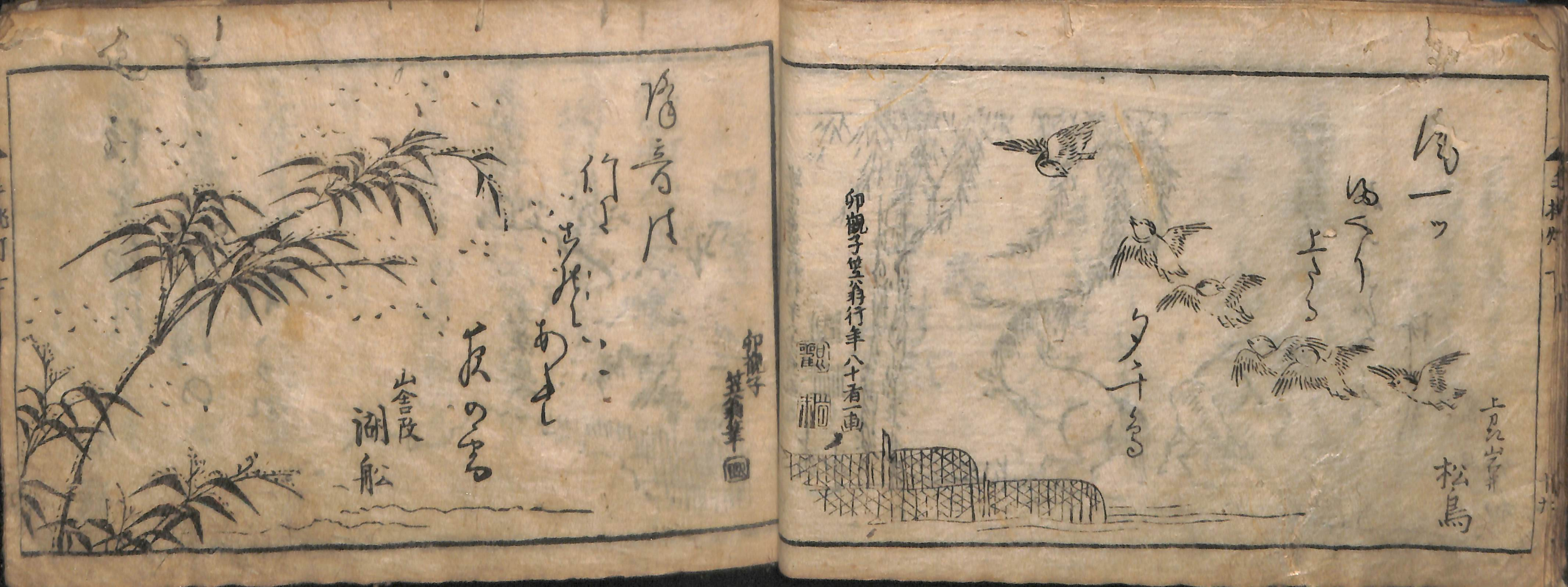
小幡　其朝

切なくそふかき句

[illegible] 社[illegible] 貞雨
[illegible] 高[illegible] 蒲[illegible] 影も九重 大野原 [illegible] 芦魚
[illegible] 前橋 [illegible] 遐陬
[illegible] 炭竈[illegible] 渡て 和歌 豊東 扶父
紙[illegible] 竹支 仝
[illegible] 紀遊 三丈
[illegible] 馬庭 里水
[illegible] 熊谷 [illegible]
[illegible] 山至 藤崎
春[illegible] 貞宿

今[illegible]むらし嵐雪
[illegible]
[illegible]
[illegible]

貞橘
全
好和


一ッ
松島
卯觀子笠翁行年八十有一画

松爾

極を訪ひ
雪ふる藻の
梢へのれ

四季

佐野
地流爾

船の灯ろ人声ゆし秋月　杜川

一掬ひ月もよそわる清水かな

後徐驚るて血脈や紫蘇

ずらりと枝へ沖法師秋の雪

仝

こんまをて是も涌れる湯の春　一德

梅の木の梢ゆ月遅てうゆ蛍

風ふいて豆腐の皺ふ秋去音

大蔵の火ふくうる火蛙ト

全

恵路や雪を踏の高時許山　呉周

樣越の樣をも笑ふの給哉

共原や時もまく月会雪

舞ふ人の形を雪婦

全

石橋蓋酒土ふ形料ト　貞豆

上州豊井

一さはく蛙を彩る数ふ

峰の雲ふく別出て和歌ト

傘作ふ形人嘘ふく聞ト

全

子安八跡へいのひ示沙子ト　貞國

子供抱く人の神ふ門割見

仏事八成ふ人法の月

庭会示仮者ふ一人参ふ

全

むかしをもふ雪松ふ橋　石之

松と屋ふの茅ふ地ふ沼樣

稲荷を絶ふ松の　李の宵

松ふの水海とゆふ千鳥ト

全

[illegible]

全

[illegible]

全

[illegible]

全

伊勢[illegible]七十五番 飾磨 上州藤岡 貝川

[illegible]稱[illegible]

[illegible]

[illegible]

全

[illegible]

[illegible]

全

全

全

上州小幡

全

全

全下大塚

全

全藤岡

全

松人留山恋ふる花屋　芦汝　上州藤岡

淋しさ酔て行ゆくさ春

絵ゆかしき声ふ[illegible]後の月

馬士は唄ふ沢の枯野ゆく

全

[illegible]　全八幡山　邑山

[illegible]

全

[illegible]　東雲亭　芦相

[illegible]

全

[illegible]　東見庵　芦寛

[illegible]

全

河州 魚千

全

一つなの
あらしの
松ぞ
矢田 貞鶴

笠翁画

牡丹の子や
盛りの比は
貞本
白本
巳雲画

三物

青くても秋愛きと詠と紅葉し　拾参甫 貞里
入日ハ山月ハ浦にる亦
鷺居の御所ハ小手折機梓

全

いさ今さぬくおなく行打ち　一祖堂 芦非陂 芦長
財能にてある鞠のいさ清
夜と昼へ継有るを路頭く

全

牧悶ハ表と志ある夜行の杜鵑　波光
麻酒ハ癖に成て涼しい
水閣の月に君子法出ると帯て

全

[illegible]

全

[illegible]

上州補山

詩と[illegible]

[illegible]

全

[illegible]

松花

琴の[illegible]

全

[illegible]

[illegible]

全

[illegible]

弘山

全

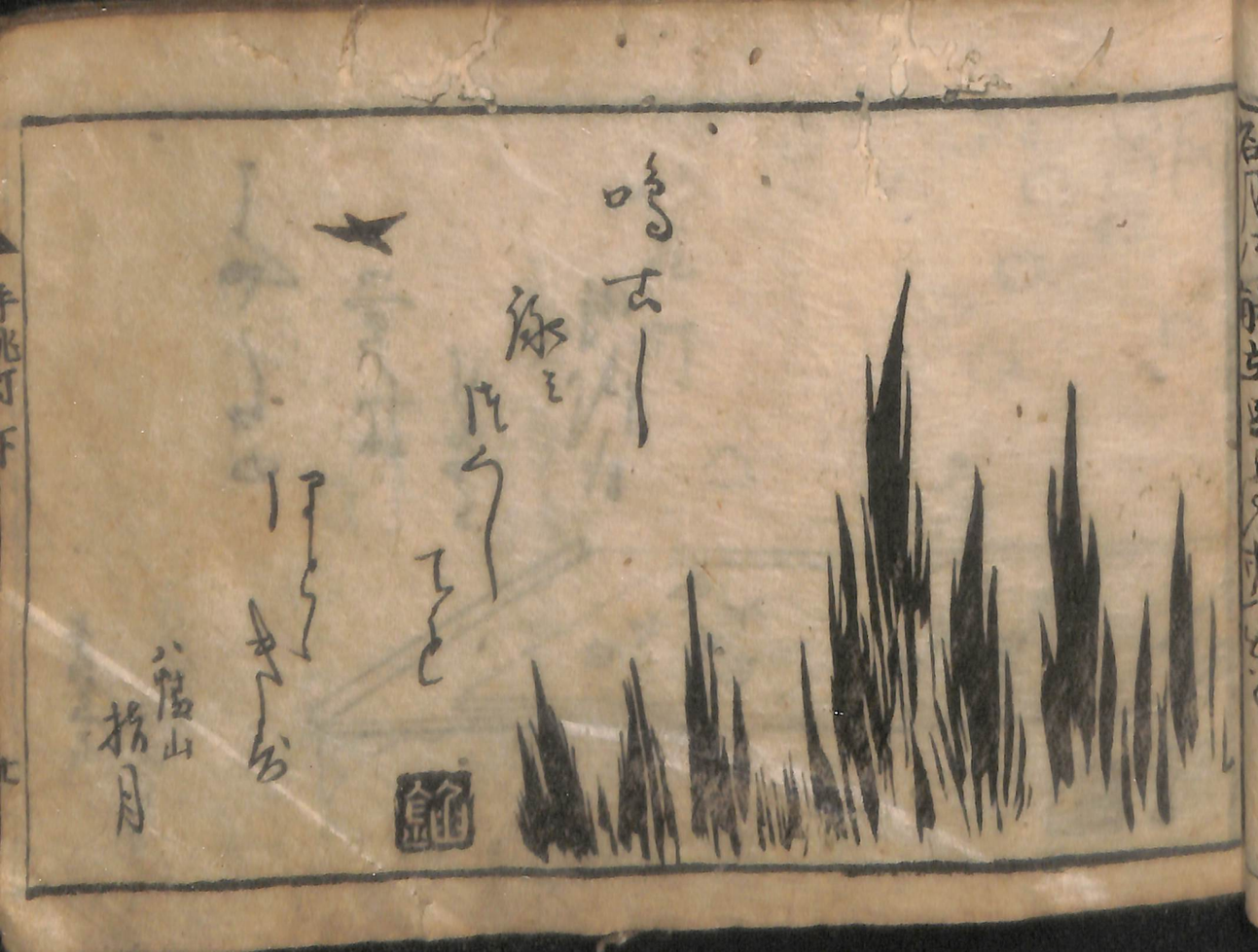
[illegible]

全

[illegible]

全

[illegible]



仝

二人寄て[illegible]の秋の彩[illegible]　全金井　桐米

[illegible]梅

[illegible]

仝

[illegible]の夕景色　嘯平　松閑

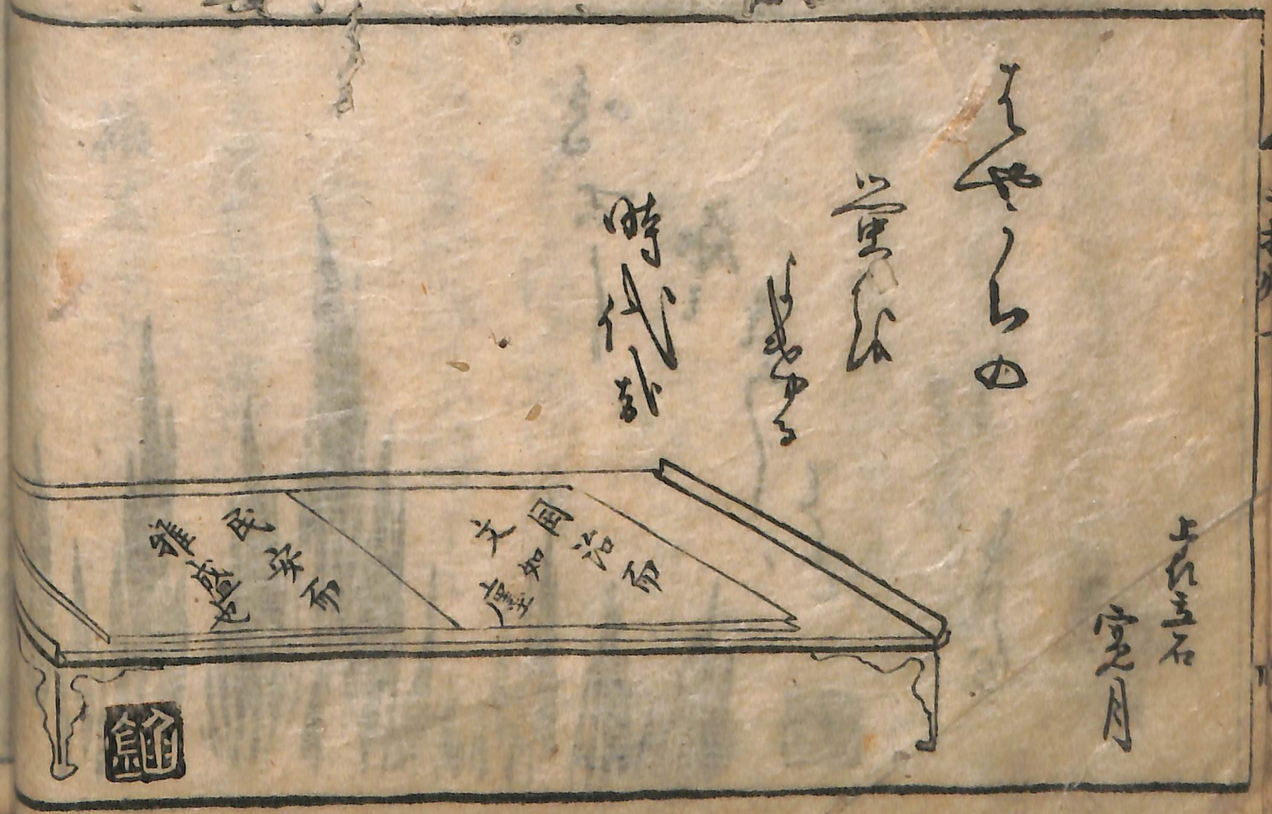
[illegible]の湯掬

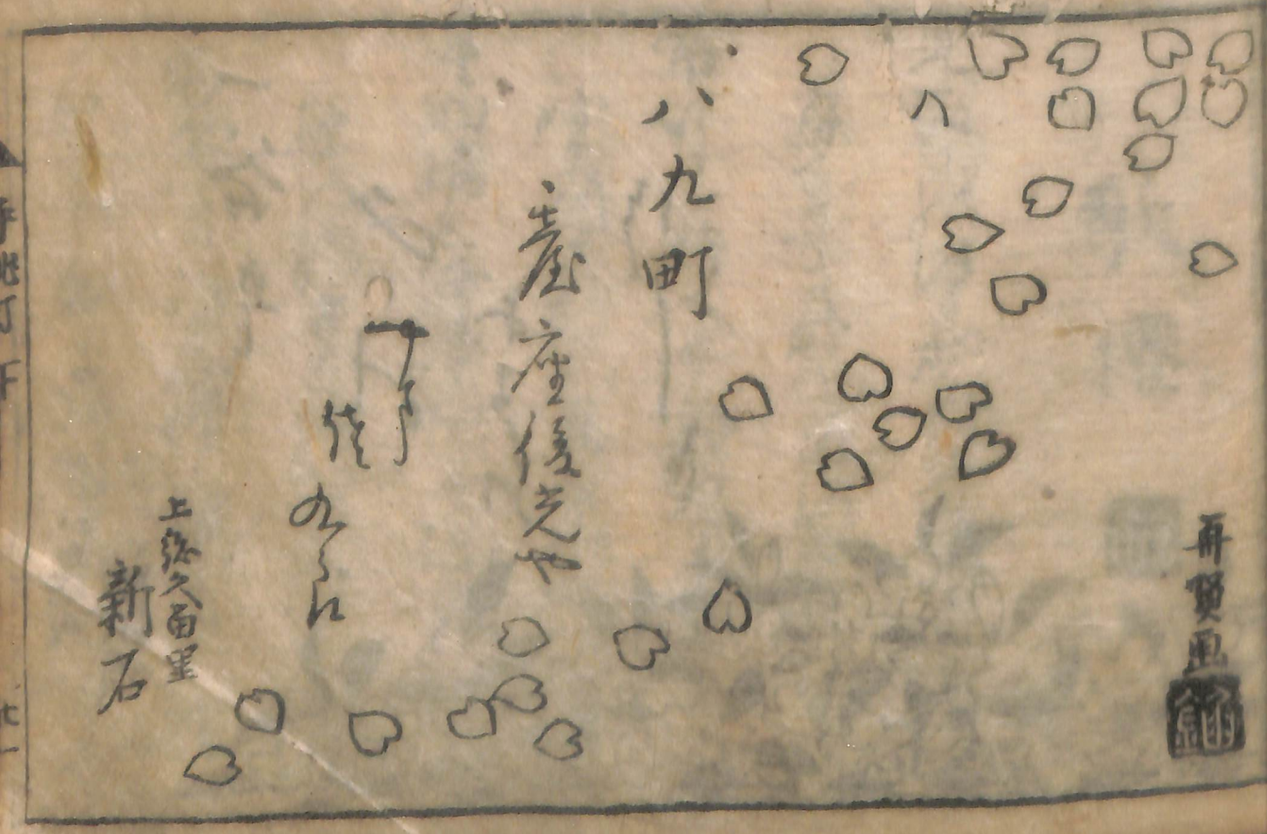
[illegible]

仝

舟を漕[illegible]の女[illegible]　芦魚

[illegible]


時代物
上総之石
定月


八九町
上総之国里
新石

一谷を
夕ぐれ
あまたの
ほしかな

八幡山
湖山領

歌僊

風志

夏波はるかに書田哉

森て長る外の面に紀崎 貞山

帝ひとり詩人や奥ひるまく 常仙

蟬の声の中に鳥帽子 有佐

淳瑞瑞を泌溪の豆池の月 貞屋

葉乃陽まる新藍の翌 執筆

家々の海苔の葉の光 [illegible]

世をも名を記笛志一人 [illegible]

[illegible]
かなさまの乃洞窟より
日響の猫、[illegible]成
柏の下の青かうの風
り奥の貴松の[illegible]の里
玉斗の新婚の[illegible]
もゆしの猴も松の雪
松は春の[illegible]
すかさも陵[illegible]の下
月代の[illegible]

二人前の[illegible]
[illegible]
先立て難[illegible]
[illegible]
結丁の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

月の名所世世代々の風情有所志
味りあふ蝉丸歌
[illegible]
人々捨ちぬ不乱尚社有
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

寄仙

水仙の又葉ちかく成葉枝汁一椀
料理乃珍味也 初夏 蘭蘭 芦
ゆ 物法 雨 蕙所へ 梅 過て
南方を望む小通市の意也一椀
ふなぐさ 浪 せハ 書の月
聖谷の 猴乃 柳 量 夏 春
色 花 ナ ス の 小 亀 向 小 鵬
溝 は 除 蓼 法 名 魂 一 椀

やんごとなき赤子の墨の口車
風もこゝに来情油の後者 茂雅
なかゆくに春の山もせもせもせ
たゝまくとおもさうぐ一法
拙人うるはしき花の枝
春ゆくのうるこ法師 茂雅
春家の尾と恋の習より
秋、夜の部入ゝ一法
深幽の華勢は出る峰の月
秋ゝ月かゝる人四 茂雅
[illegible]の封疆て踊乃間ゝ法師
ゝ
ゝ顔の道長ゝ一法
汚穢のむし法師入ゝ
鉄線花ゝ絶る卑雨 茂雅
風ゝ出船ゝ風を結る
星乃夢ゝ哭の一法
世渡のてふ松ゝ唄念仏
雑撞ゝ京乃来掩
法師ゝ一階ゝ楽 茂雅
吉ゝ歌ゝ

月雪花愛でさせ給ひ生涯
岡烟叢霞の風の月雲一法
花ふさ法せ給ひ梅の梓弓
時代ふるためし國風
歌の別とは歌かるる合者 業平
たとへ時雨の雲は無ふる一法
秋くれば七ッ下りの巻の山 業平
琴柱 果 島
くはしくうと

歌仙

上州藤岡連

松の色青きうつるの玉乃 貞川
跡も淡く等にする 雁 貞賀
玉ぬき法の月も俳出来 貞陸
野戸也汐のさと所 貞隣
ほさ苔の数乃此の部 貞宿
猫を鳴て通ちむく大 西湖
孫日ふすり合奉も丘のうと 貞笠
舟の烟代橋八清こ 湖雲

備後鞆なる料理茶屋　芦波
味しい味ハ口へ封切　芦樓
名所ハ　鞆の浦　湖樓
おくく　ひ　て　山琴
摂津　陳皮　霍山
城さんはさんの大名　東川
る好の　伯　山
日ハ　泊　周賀
浦風　文里
の中う

一枝　芦拙
把　百　毎　献　宝
隆　形　猫　浦
の　少　遊　松　嘉
門　神　本　嘉　川
花　上　伊　勢　桜
居　二　階　仕　書　好　国　殿
寺　藤　右　書　刑　ふ　ふ　ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

洲崎と紅葉の名所 松島
橋 里霞
能道尓 琴山
毛ぬるる 油の匂ひ 粉桝
ぬぐひ口 紙すりて 月雪 松仙
虫 指小 ちく 虫を 掛る 好知
乃紙と 書る 小声の 張成 只美
杉山 湯治の 名人 桐葉
玄蹲 鬼角 ぬく 連 出 乃 月 好
拭く 長口は 雪の 声 牡蠣

七夕の 大不破の 来る 書の 琴 山
堂 敬 髪乃 顔へ 行 松島
恵すて 豊 後 乃 月 弦 測 杯
さ 行 く 松 い て 横 測 乃
間 乃 涼 し 渡 る 妻 入 月
面 と 呼 ま は 月 の 美 尓 只 美
瀧 意 と 通 て 髪 お 月 好 夕
夕 詠 こ す お 尓 井 の 月 る 只 好
お 尓 木 青 尓 月 入 わ る 四 の 音 桐 翠
う み 芋 の 海 苔 茂 の 只 月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

佐保姫

配利渡須

短冊

歌仙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

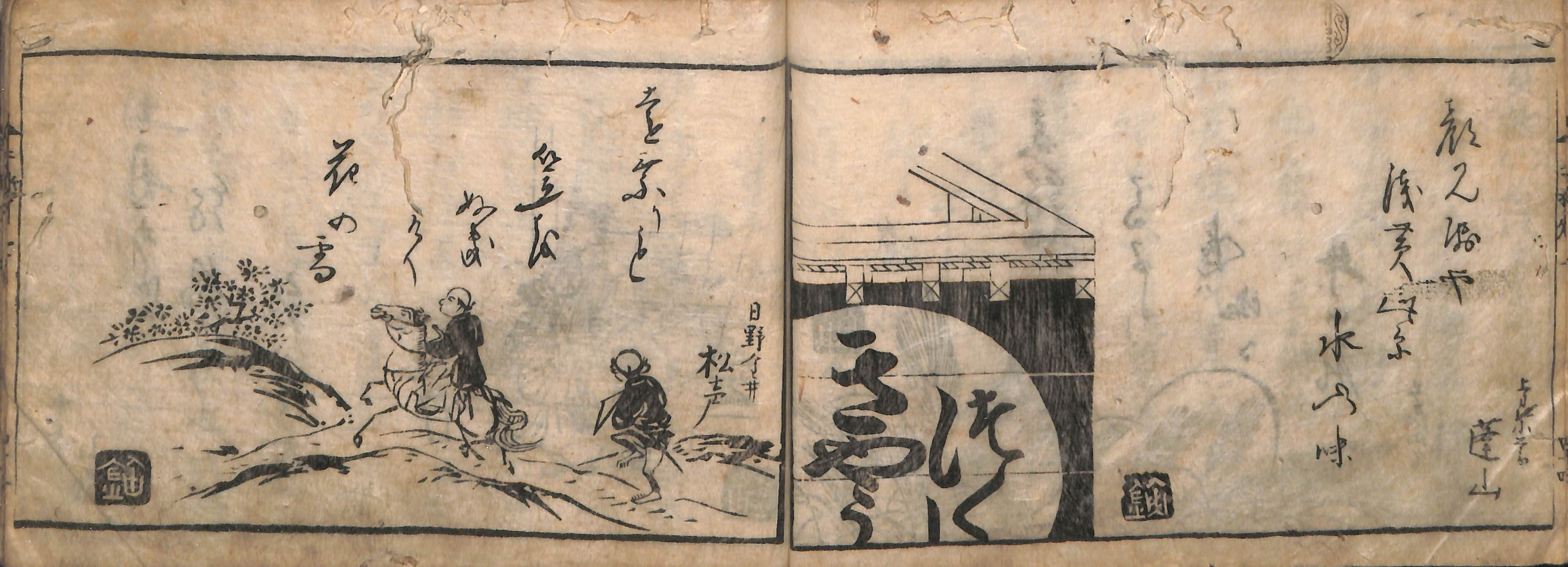
[illegible]

[illegible]

大名の通さ路よ[illegible]
千両箱の棒ら[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
二階座浦へ上り衡立
矢さあり[illegible]
口と及ま事とし[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

寶鼎の是代都と和しれば　宝玉
姝嘆く楚の通東金　宝闘
早乙女の一人ぞ来る畔伝ひ　宝雨
低く蔭して上る神鳴　宝鶴
檀文の嫁を渉てまの立　宝玉
地先の日八洲の名斗　黄義
赤玉と三度濱の美の國　宝國
春雨　宝稲
ゆしの宝て
登麻


水の味
蓬山
日野行井
松声

中ノ条
山鬼

土月の色
紅葉とゝ
波日の祭

生霊

清く雪景の四様のかゝり方　木春
正堂乃地八陣の川　将文耕
生魂の源実ハ法ゝ　貞里
格法月星法主　禅才去
高加茶孝重上さ月見宴　文耕
水引西瓜月格の換る　史里
妹風去吹小付も姉の里　文耕
ゆんにいそれぬ出の心根　史里
つ弦乃琴と張り　銀小判　才去

[illegible]

[illegible] 文耕

[illegible] 杜鵑 只里

[illegible] 本素

[illegible] 只里

[illegible] 文耕

[illegible] 相 文耕

[illegible] 本素

[illegible] 只里

[illegible] 本素

[illegible] 文耕

半歌仙

[illegible] 白菊

[illegible] 只里

[illegible] 只里

[illegible] 只里

[illegible] 只里

[illegible] 只里

[illegible] 只里

[illegible] 只里

[illegible] 只里

里見蔵さき掛物ある　芭蕉

市造家喧嘩乃中ハ外ハ森て

長生坊ハ奇妙な人ぞ　菊

松杉も霧ハ千月ハ浩然と

河崎高沢浦と合さる　芭蕉

ふ渡り椎を敲ハ蛙のふ　菊

ふのかとり秀ぞ　芭蕉

義ハ物乃尾も猛者の　芭蕉

こみ川ぞいハ　芭蕉

ふくしまを出格子

半歌仙

鉦鼓も水ぞ水ぞ五月雨　芭蕉

名と生ハ出ふく蝙蝠　芭蕉

ふ乃日ハ市の書物ハ脱

無駄ぞする稲ハ吹覆　芭蕉

三月ハ家合ハ小盗

相撲乃喧嘩秋の坪癖　芭蕉

滅ぶさ法ぞ濃ハ地ハ

蛍ハ掃ハ人濃ハ

人黄の垂ハ乃ハ後ハ　芭蕉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

半哥仙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

打煎茶の味はひ　又　業平

福はうちの秋長の袖うちはらひ

徒歩食事　能狩　とくとう　業松

ゆくへ遠き富士の陰の青まつを

菴と達かく月と青と　業平

神ぢ場の水鏡　とくとの前

和光の五葉　能狩　業松

御事へ一枝　ゆきの山　業平

ゆきの山　福寿の　又　業松

稲荷

夕阿波

徳蓋、蓋の面へ丸書ト　米成

うゑ弾ずる松の風

陸の酒うち酒へ古ぶる

力持のまた腕こうて

ひとつ来て就屋の漆

分れ吐用を若ゆの者

遠ゆ者ゆ月ゆ　浪屋

ゆくと吐て引舟去中

粒粉の就布かうる用行所

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

東山をさしつゝ流れ雨の間
[illegible]石町の渡
初鰹小刺と書く矢[illegible]
[illegible]松風の味[illegible]
[illegible]と余[illegible]
[illegible]別る[illegible]
[illegible]

小袖　道芝
[illegible]
署[illegible]

半哥仙　松原氏　貞州

初唐の蓑も濁[illegible]鳴の滝
月夜に松〳〵
[illegible]
かさ〳〵もみ[illegible]
丸十八町[illegible]
盥[illegible]
むき[illegible]
[illegible]通[illegible]法の[illegible]
[illegible]

[illegible]

八島八重潮を隔て吉野の
宮戸伝法庵の和尚
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

貞享二年
貞里
御菓子屋
粽
屋
粽
貞享二年

入おとこ
花
芹の
吉
上巳日市住
梅月
休真
牛
牛
扇山
休真

可風

紅牡丹

首尾

二十木

[illegible]

小松の興も驚かぬ人こそ
誠に孫と仲基なるべ[illegible]

裏白

[illegible]日[illegible]

渋柿香

[illegible]乃富貴[illegible]海 貞主

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

裏白

東氏

[illegible]琴三絃[illegible]節[illegible]不徳山

[illegible]

[illegible]天

[illegible]大事の交を拾[illegible]

[illegible]

[illegible]又[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四季

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題 菊の夜雨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

奉納

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
鬼
[illegible]
[illegible]
[illegible]

子灯燈〻ヶ〻

芦丸金の毬ふ事

胡河洞ちば茂陵

延享二の春

桐秋

前夾其傘与今手
挑灯者以便雨行
夜歩焉然則又憾
無合羽也後注書
頭問足之則山谷
云予為書也六童
李傘雨灯暗而不
乗於行路言也至
其合羽者各宜在
勉強矣予以爰猶
識謂李則在祿

中庶有祿豈何患無
合羽也只勉強而得
胄誓則於此道無悪
路也 不文

貞賀跋

手挑灯下卷 終

蘆翁藏板
江戸通油町
書林 川村源左衛門